

第54回「ケアの人間学」合同研究会
リモート、2020年9月6日

システム倫理学 枠組みと応用

老成学研究所
森下直貴

2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

1

私の思想の変遷

①無からの視点

『死の選択』1999年

あらゆるものごとのつながりあい

②安らぎ／ウェルビカミング

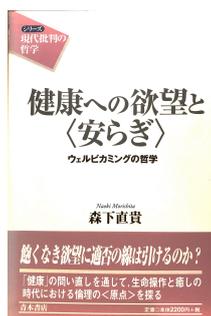
『健康への欲望と〈安らぎ〉』2003年

欲望世界の座標軸の原点

③済まさなの相互性

『水子—日本文化の底流』（解説）2006年

心の原点から倫理へ



2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

2

私の思想の到達点

④ コミュニケーションシステム

心から社会や理念まで
包括的なプラットフォーム



編著『生命と科学技術の倫理学』 2016年

『システム倫理的思考』 2020年



応用例：安楽死をめぐる論議

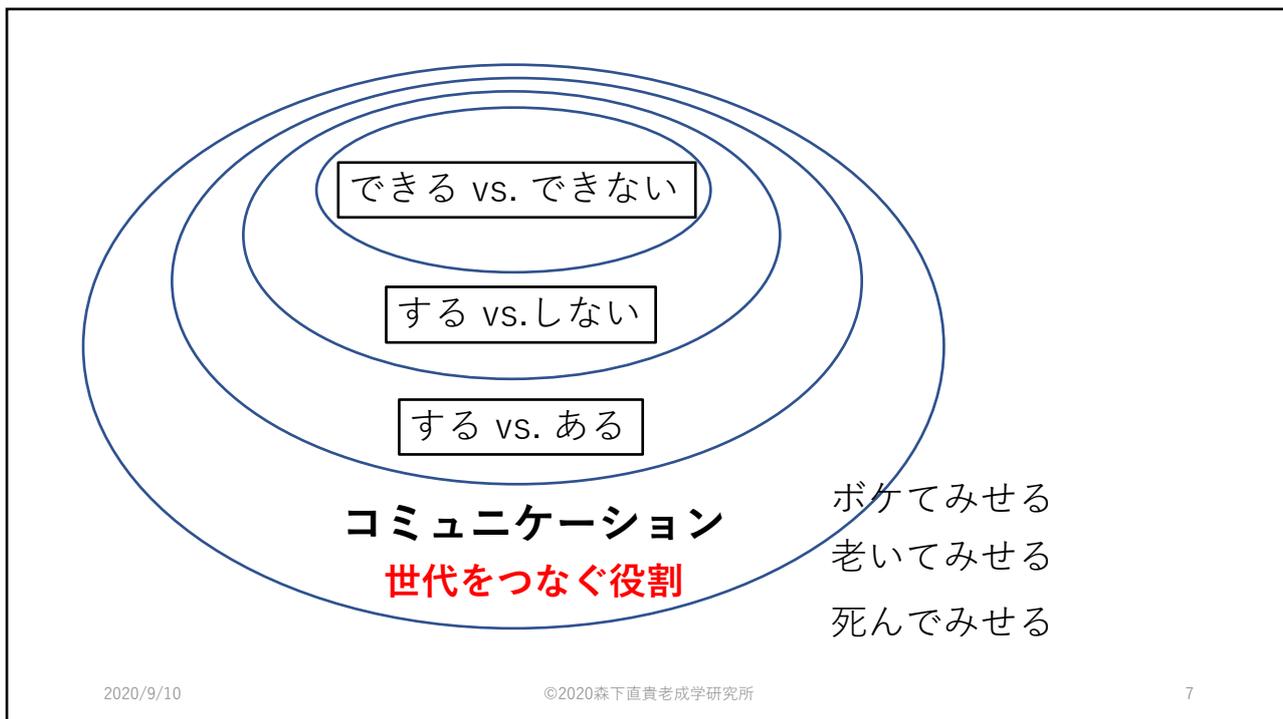
当時92歳

- 橋田壽賀子：安楽死希望（スイス）
世話・迷惑をかけたくない
→ 尊厳とプライドの問題
親子関係の見直し：世代ごとに自分の後始末



コミュニケーションギャップ

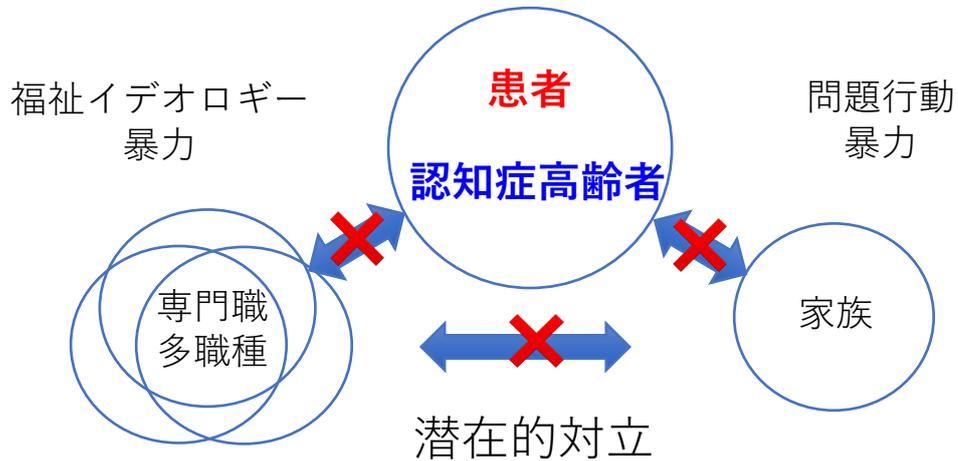
- 医療関係者：
安楽な死に方と安楽死との混同
世話されたくない→医療者のプライドを毀損
在宅看取り可能、日本＝安らかに死ねる唯一の社会



内容

- **両側並行モデル**
- 四次元相関の論理
- 意味世界の構成
- 方法の構図
- 応用例の紹介
- 疑問への応答

コミュニケーションギャップ 医療・介護場面

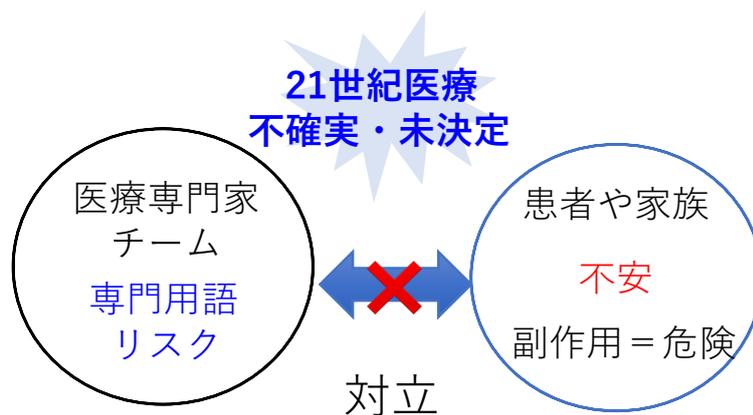


2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

9

コミュニケーションギャップ 予防的乳房切除術



2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

10

福知山線電車脱線衝突事故（2005年）

快速電車が制限速度を大幅に超えてカーブに進入し、脱線。線路脇のマンションに激突し、乗客106人と運転士が死亡、562人が負傷。

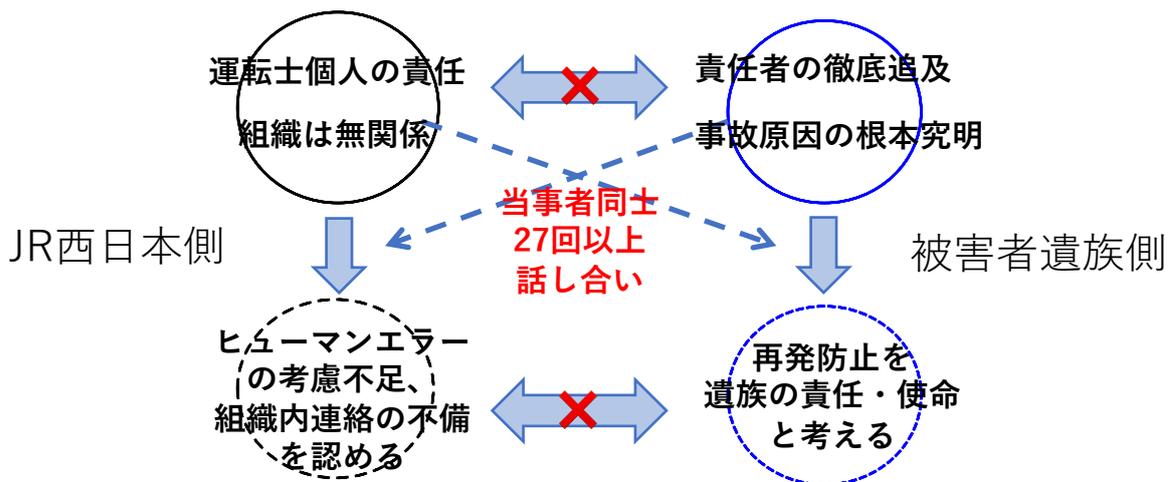


2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

11

その後の10年...



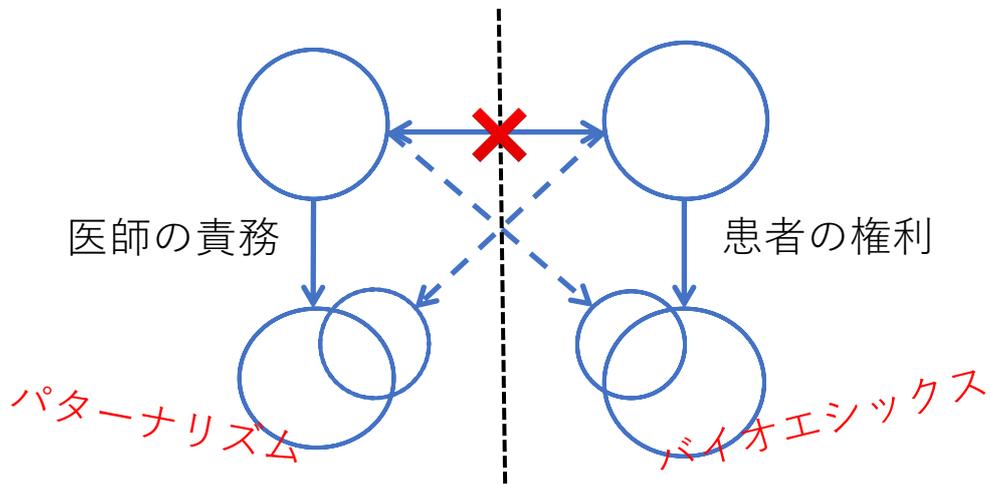
2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

12

既存：片側同化モデル

同化 = 一致可能



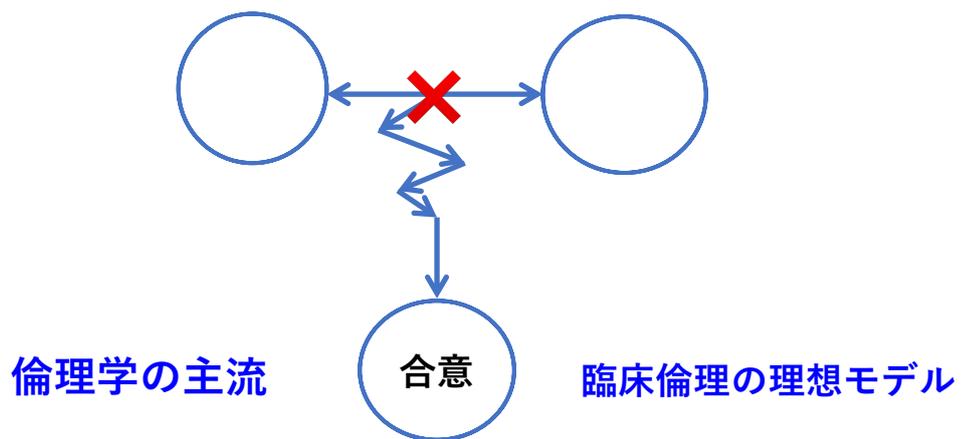
2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

13

既存：両側合意モデル

合意 = 一致可能



2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

14

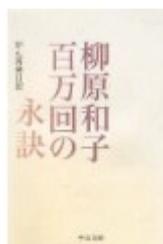
故柳原和子の場合



強い患者像の提起



再発後、「土鳩」の視線



二つの態度のギャップをいかに捉えるか？

コミュニケーション？

「画像を見たくない」

「医療が怖い」「優しさに包まれたい」

善意
押しつけ



戸惑いととも

「最期は自分で決めてほしい」

「最期まで矜持(きょうじ)・誇りを持ってほしい」

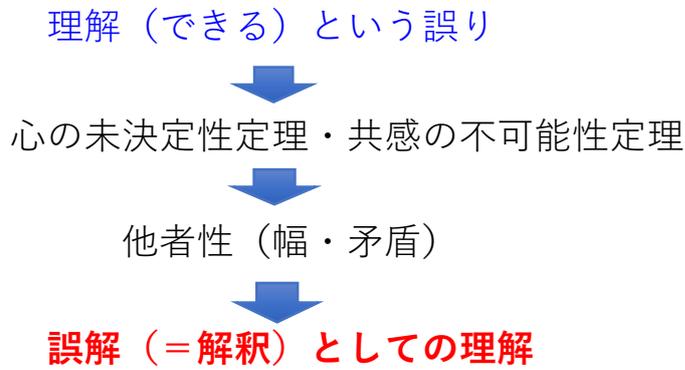
患者の人權
個人の尊重



患者の「思いの幅=矛盾」を受けとめられる
コミュニケーションなんて、あるのか？

わがまま？

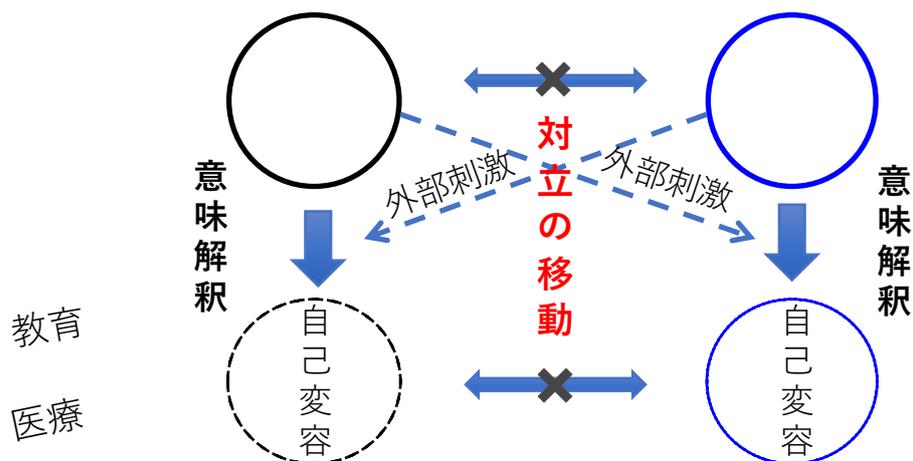
視点の転換



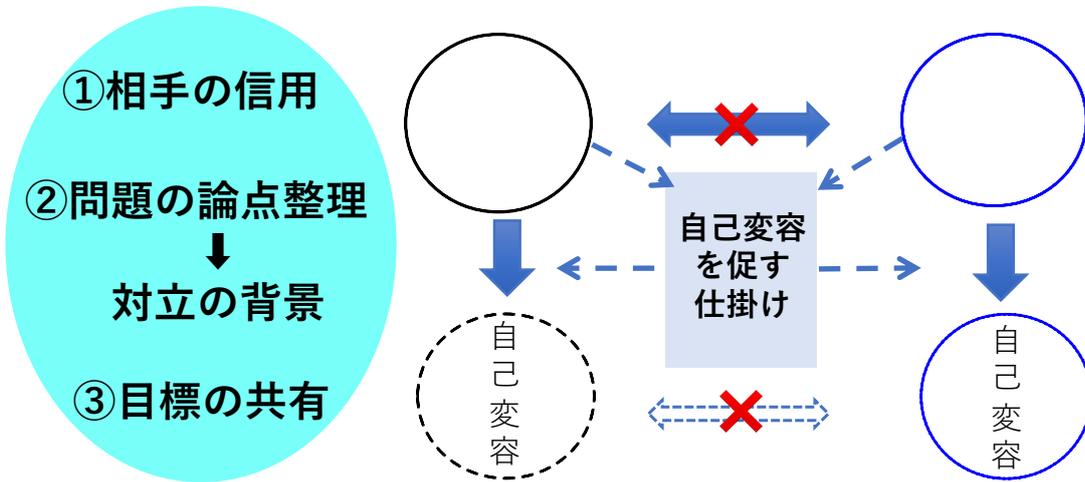
誤解こそがコミュニケーションを作動させる！

新提案：両側並行モデル

自己変容システム



両側並行モデルの成立条件



2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

19

①相手を人として信用する

震災・原発事故から6年

福島復興本社代表・石崎芳行副社長（63）



南相馬市沿岸部の萱浜（かいばま）地区
農家リーダー上野敬幸さん（44）



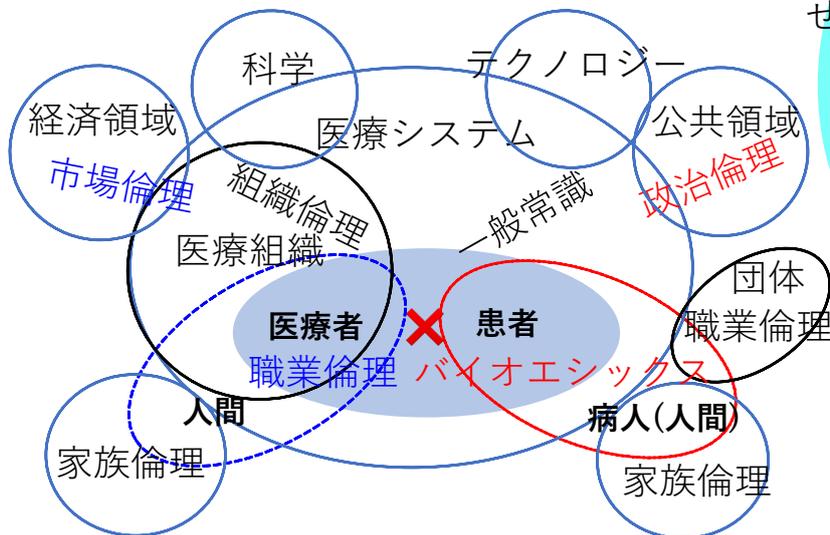
上野さんと石崎副社長も登壇した福島大学の授業2017.2.10（撮影：宮坂樹）

2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

20

② 論点の整理→対立の背景



倫理のアーリーナ
せめぎ合う力
↓
比喻
↓
論理

③ 目標を共有する

オープンダイアローグ

合意をめざさないが、
将来実現できる望ましい状態を共有する

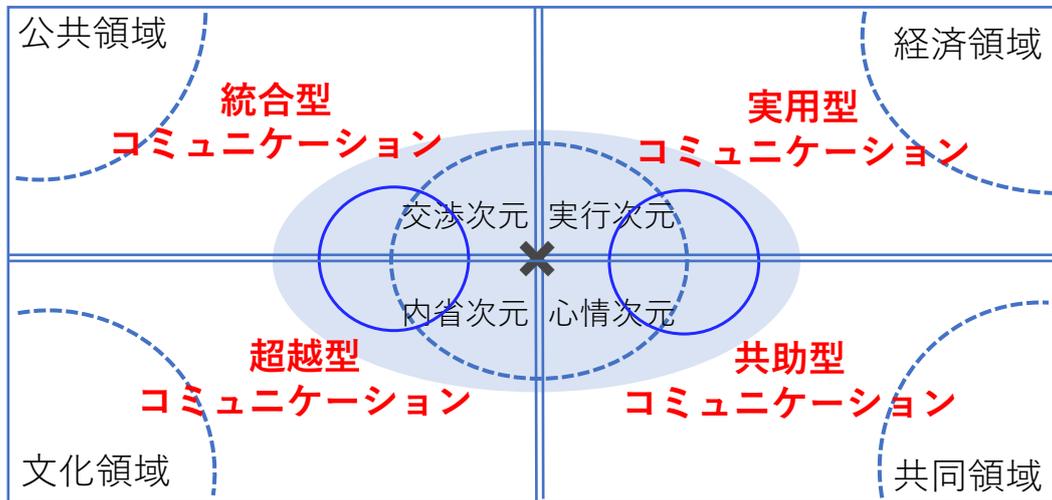


究極目的（根本究明、徹底追及）ではなく、
実践目標（再発防止の安全対策）

→たんなる分析で終わらない



②対立の背景 = 意味世界の構成



2020/9/10

©2020森下直貴老成学研究所

23